

草木疏の文に随ふ、これは地まばりといふものなり、その根節ありて葉も竹に似て蔓延するものなり、さて其ヒシハといふもの雄雌あり、叢生するものにて蒞れ共蒞れ共生する故、肥後にて小ざうころしといふ、漢名は馬唐なり、その穂四ツ五ツ又になるをつみとりて倒に席上に置、二ツよせて席を敲けば、自ら跳りてすまふ取さまあり、組合せて席をうてば、一ツは倒る、なり、ヒジハの名義おぼつかなけれど、早芝ヒにや、早地に生て枯れざるなり

〔倭訓栞波中編十九〕はぐさ。河内澀川郡の村名に蛇草をよめり、式波牟古曾神社此村にあり、尾州にやつまたといひ、江戸にはくさといふ、こもすまふとり草ともいへり、

〔赤染衛門集〕さてひころおとせぬを、これよりはなにしにかはおどろかさ、ほどへてすまひ草にさして、

すまひ草たふる、かたに成ぬるか心こはしくかつはみえつ、返し

何にかは心もとらんすまひ草思ひうつるにかたこそあるらめ
〔金葉和歌集十歌〕すまひぐさといふ草のおほかりけるを、ひきすてさせけるを見て、

よみ人しらす

ひくにはよはきすまひ草かな
とるてにははかなくうつる花なれど

馬唐

〔重修本草綱目啓蒙十二〕詳ナラズ 馬唐一名馬塔大明一統志○同莎草トイチゴザシ後備コゾウコ
集解説クトロノ馬唐ハメヒジハ、京師ニテカヤツリグサト云同名トイチゴザシ後備コゾウコ
ロシ同モトリグサ仙モウグサ同フチハ雲トコロテン淡メシバ薩タケヒジハ石チ
シバ前備ホドグサアキボコリヤツマ州云夏已後自ラ生ジ、廢地ニ甚多シ、細莖地ニシキ蔓